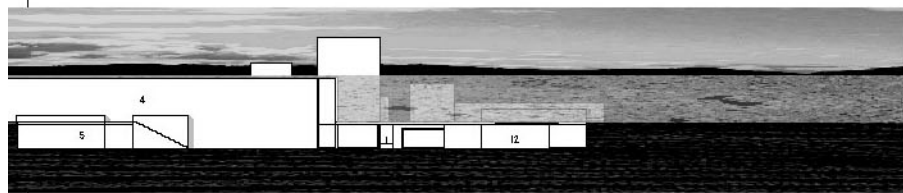
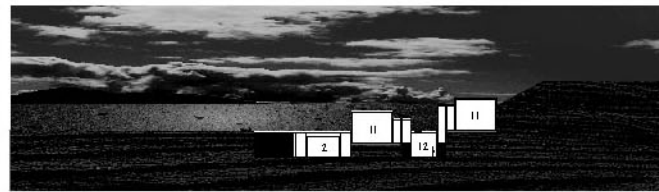
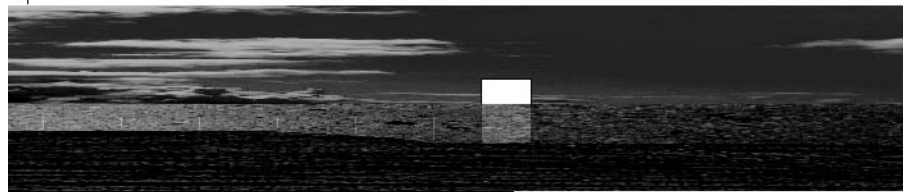
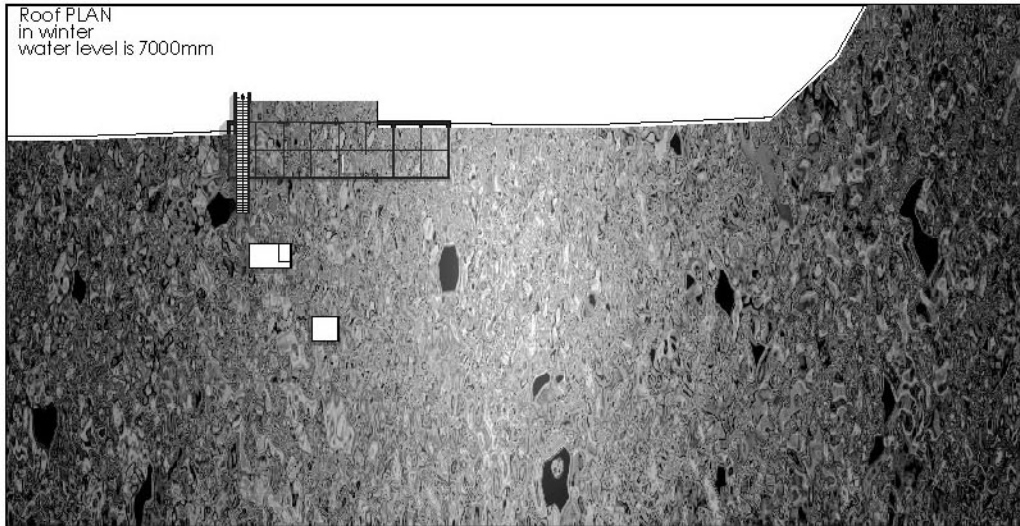


Roof PLAN  
in winter  
water level is 7000mm



季節によって建築のアクティビティは変化する。夏には新しい大地と共に、外での活動可能な空間が現れ、秋には建築は半分程水面に埋もれ、その姿を徐々に隠していく。冬にはほとんどのボリュームが水面の下に姿を隠し、残されるのは既存の廃墟となったプレームと立派のような垂直な箱である。建築の先端に伸びる箱は、かつての運炭所から壁のマチへと石炭が運ばれていった方向性だけを示す。この建築の冬に向けて消失していく姿は、かつての津野という忘れられたマチが湖の下へ消失していったことを思わせる。人はこの建築と共にかつてのマチを記憶に刻み付ける。この建築は水位の変化と共に姿を見え隠れさせる記憶の箱である。建築の内部空間は地下において繋がっており、水位が満水に至った場合でもmuseumとしての機能は損なわない。地下からは上部に空けられたトップライトや開口部、スリットから水を通して光が室内へと貫入し、水面の揺らぎと共に空間に入ってくる光は揺らめく。

